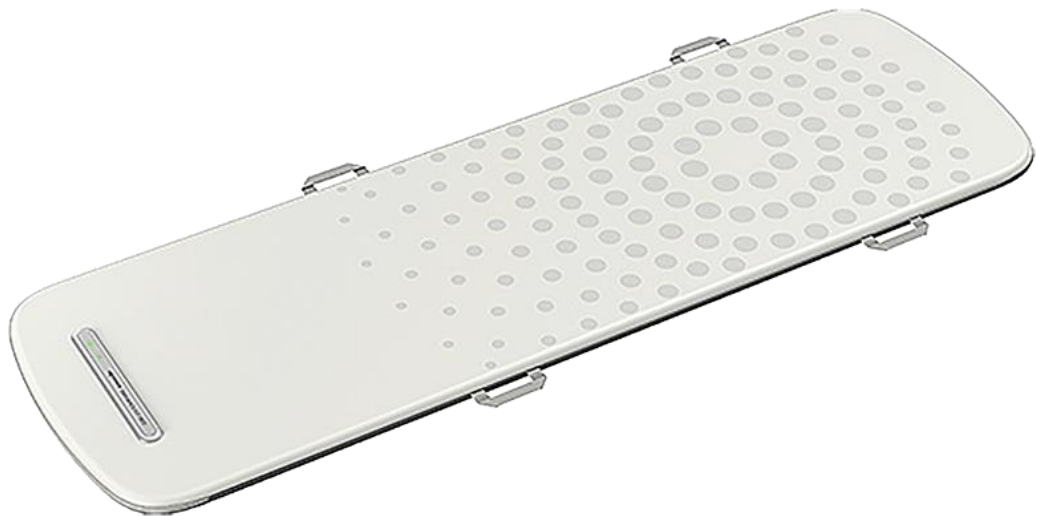


# 『眠りスキヤンの導入』

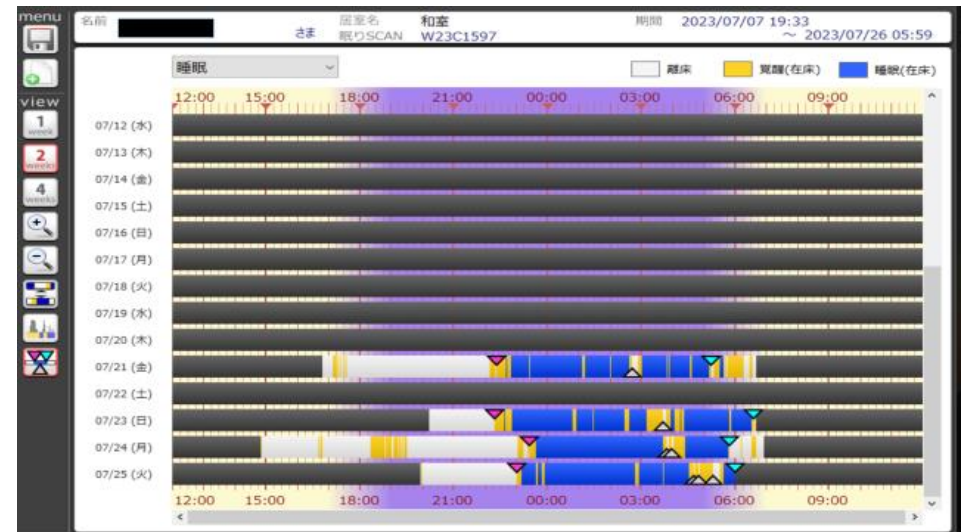
令和4年度長崎県障害分野介護ロボット等導入事業補助金を利用して、令和5年5月よりケアステーション（短期入所）に1台、星のホームあいの（グループホーム）に2台導入しました。



社会福祉法人 星のくま

# 眠りSCANの特徴として

- ・利用者様の眠り状態をリアルタイムでモニタリングできる。
- ・『睡眠・覚醒・起き上がり・離床』と状態が変わった時や、呼吸数・心拍数が設定した条件になった時にスタッフルームのパソコンや携帯端末に通知するよう設定ができる。
- ・夜間には、利用者様の眠りを妨げないように、目が覚めているタイミングでケアを提供できる。
- ・職員間での情報共有、体調変化の気づきを通して、より質の高い支援が可能となる。



# 導入前の課題

- 入床後、どのタイミングで就寝しているのか？
- 夜間、どのタイミングでトイレに行かれているのか？
- 宿直の場合就寝後の離床など気になるが確認が難しい。
- 睡眠時間は確保できているのに眠たそうにしてるのは睡眠の質が良くないのか？確認が難しい。
- 夜尿症の利用者様の排尿タイミングが把握できない。
- 職員、利用者様ともに精神的な負担も大きい。



# 眠りSCANの使用状況



- 職員間で会議を設け、緊急性の高い利用者様から利用していただいています。
- 短期入所では、その日の利用者様に合わせて眠りの状況を確認しています。
- グループホームでは2台の眠りSCANを使用して、入居者2名ずつデータ収集を行っていききました。

# 導入効果・現場の声

- ・ 離床の回数・タイミングから睡眠の質について検証する機会となった。
- ・ いびきが多い利用者様が浅い睡眠であることがわかり病院受診の提案等に繋げるきっかけとなった。
- ・ 離床される利用者様の部屋割りなどに活用できた。
- ・ 訪室するタイミングを計ることができ職員・利用者様の負担の軽減に繋がった。
- ・ 客観的データをモニタリングや会議等で提示することができ、判断材料に活用できて良かった。
- ・ ご家族へ情報提供し、病院受診の際に役立てていただいた。



# 導入後の課題・今後に向けて



- 宿直業務ではリアルタイムな支援について限界がある。
- 眠りSCANの導入台数が少ないため、複数人リアルタイムな計測が困難である。
- 睡眠の質を考えた時に、現在使用している寝具や環境設定も今後検討していく必要がある。